

2013	1	14 ～ 15	被災者は、ガスタービン発電設備における燃料ガス（都市ガス）圧縮設備配管内の異物を確認する作業を行っていた。フランジを外しストレーナーを取り出し、開口部（内径38cm）から、被災者は上半身を配管内部へ入れ、異物を確認していたところ、配管内部で爆発が起き、その勢いで被災者の体が配管から外部へ押し出され、後方に倒れた際にコンクリート床の配管に頭部を強打したものと推測される。	11401	14	1001 ～ 9999
2013	11	4 ～ 5	銅製造工程の副生成物である金残渣から、希少金属であるSe（セレン）回収後の処理液からTe（テルル）を回収する工程において、還元槽の所へ行った被災者が戻って来ないため工場内を探したところ、還元槽に墜落しており、全身化学熱傷で死亡した。	11101	1	300 ～ 499
2014	1	14 ～ 15	被災者は、プラントから取り外した水素精製設備の熱交換器の洗浄前作業を行うため、熱交換器の蓋（チャンネルカバー）を取り外したところ、爆発が起き、爆風を浴び、飛んできた蓋の直撃を受けた。	10801	14	100 ～ 299
2014	1	14 ～ 15	被災者は、プラントから取り外した水素精製設備の熱交換器の洗浄前作業を行うため、熱交換器の蓋（チャンネルカバー）を取り外したところ、爆発が起き、爆風を浴び、飛んできた蓋の直撃を受けた。	30309	14	1～9
2014	1	14 ～ 15	被災者は、プラントから取り外した水素精製設備の熱交換器の洗浄前作業を行うため、熱交換器の蓋（チャンネルカバー）を取り外したところ、爆発が起き、爆風を浴び、飛んできた蓋の直撃を受けた。	30309	14	1～9
2014	1	14 ～ 15	被災者は、プラントから取り外した水素精製設備の熱交換器の洗浄前作業を行うため、熱交換器の蓋（チャンネルカバー）を取り外したところ、爆発が起き、爆風を浴び、飛んできた蓋の直撃を受けた。	10801	14	100 ～ 299
2014	1	14 ～ 15	被災者は、プラントから取り外した水素精製設備の熱交換器の洗浄前作業を行うため、熱交換器の蓋（チャンネルカバー）を取り外したところ、爆発が起き、爆風を浴び、飛んできた蓋の直撃を受けた。	10801	14	100 ～ 299
2015	10	12 ～ 13	エポキシ樹脂を製造する第3工場のジャケット付き攪拌溶解器の上部マンホールから添加剤の赤燐を投入中に火災が発生し、投入作業を行っていた被災者が、マンホールから噴出した火災で、上半身など全身の60%に重度の熱傷を負った。その後、被災者は、皮膚移植治療を受けていたが、感染症による多臓器不全により、平成27年12月27日午前2時41分に死亡したものの。	10801	16	100 ～ 299
2016	1	0 ～ 1	銀粉製造時に発生する排水を処理する6A棟において、金属排水蒸発濃縮設備の洗浄作業（硝酸溶液を当該設備で循環運転し、同設備内に析出している銀を溶かして洗浄する）中に爆発し、硝酸溶液及び窒素酸化物を含む有毒ガスが噴出した。当該洗浄作業を行っていた2名が入院し、他の排水処理装置の運転管理を行っていた2名が死亡した。	11109	15	100 ～ 299
2016	1	0 ～ 1	銀粉製造時に発生する排水を処理する6A棟において、金属排水蒸発濃縮設備の洗浄作業（硝酸溶液を当該設備で循環運転し、同設備内に析出している銀を溶かして洗浄する）中に爆発し、硝酸溶液及び窒素酸化物を含む有毒ガスが噴出した。当該洗浄作業を行っていた2名が入院し、他の排水処理装置の運転管理を行っていた2名が死亡した。	11109	15	100 ～ 299
2018	10	0 ～ 1	被災者は製品の投入から排出までが自動化された銅錫鍍金装置を稼働させており、装置の一部である段バラシ機に製品台車をセットしていた際、段バラシ機内部に進入し、稼働しているアームと台車との間に胸部を挟まれた状態で発見された。段バラシ機は安全囲い及びインターロック付きの扉に囲まれていた。被災者が内部に進入した理由及び扉が閉じた理由は不明である。意識不明の状態が続いていたが、後日死亡した。	11709	7	100 ～ 299

2020	10	10	工場内に設置されている硫化機6台を解体するための前段階として、注入配管の切断作業を被災者が電動ノコギリにより行っていた。6台目の切断作業を行っていたところ、当該硫化機が爆発、点検口の蓋が飛び被災者に激突したもの。また、爆発により有毒ガスが発生し、それにより1名が負傷したもの。	10802	14	100 ～ 299
2020	4	16	被災者は普段は構内清掃を行うが、被災日は製鉄時に生じるコークスガスから硫化水素を除く脱硫塔の充填物の入替（10年に1回）に従事。下から2層目で新しい充填物をスコップでならず作業中、足元のグレーチング（上69・下127・高さ56cm、1辺のみ斜めの台形）が脱落、5m下の1層目に墜落した。	150109	1	1～9

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_02.html